

つて来ました。洞の中からは、二人のかはいゝお歌が聞こえてまゐります。

「チユウ、チユウ、父さん

チユウ 母さん

早く歸つてらつしやいな、

お米に、小蟲に、木の實や、

おみやげ、たくさん、待つてます」

「ははア、今日は二人きりで留守番らしい」

小父さん雀は、すぐそばの枝まで飛んで行つて枝傳ひに近づくミ、さうでせう。恐いゝおひげをピンミ生やして、腰に刀をさしたお侍さん。そして大きな丸いお目々で、じつミ小父さん雀を、にらみつけてゐます。田圃で見る案山子より、もつミゝ恐いお顔をしてゐます。

「おう、恐い、お侍の番兵だ。恐いゝ」

何にも知らない小父さん雀は入口に立つてゐる奴唄さんを見て、遠くへ逃げてしまひました。

かうして和夫さんの奴唄はこんな淋しい森の中に連れられて來ましたけれども、チユウ吉さんミチー子さんの仲好しになり、大事にされて、ほんミに、よかつたミ思ひました。

## お時計と虹の子供

山本フミ子

お時計が未だ今の様に澤山無かつた頃のお話です。

町の時計屋さんに色々の時計が並んで居りました。そして朝から晩迄コツコツ、ボンボンミにぎやかな音をたてゝ居りました。其の中の一つが或るお家を買つていたゞいてお二階の柱に

かけられました。お家は坂の上なのですつゝ遠い所迄よく見えます。お家の方はお父様もお母様も坊ちゃんもお嬢ちゃんもお時計が来たお時計が来たお皆珍らしがつて大事にして下さいませ。けれどお時計は今迄のお友達の多かつたお店からこゝへ来て、急に一人ボツチになりましたので淋しくてくゝなりません。お店へ歸り度いゝばかり思つて居りました。ですからお時間を知らせる時になつてもボン／＼云ふ音が段々元氣がなくなつて來ました。お空にゐらつしやるお日様は之を御覽になつて、さうかしてお時計を元氣にして上げ度いお御考へになりました。それは御自分も朝やお晝や夕方を皆にお知らせしてゐらつしやるからなのです。

次の日、朝から降つてゐた雨が晴れて、きれいな青空が見えて來ます。きれいな虹が、虹が出ました。お日様はそれを御覽になつて「あゝさうだ、あの虹にお頼みませう」お虹にお時計の事をお話してよくお頼みになります。虹も「ハイ承知しました」喜んで御返事をしました。

次の朝、外は未だ暗くお家の人もねむつてゐる頃、お時計は淋しさうにボンボンボン……四ツを打ちました。四時です。するさや／＼小さい音がして赤いきれいな着物を着た小さい／＼こんなに小さい（小指位）女の子がお空から飛んで來ました。

時計さんお早やうございます。私は虹の子供ですよ。

お日様からお頼みされて私達七色の子供が之から時計さんの所に來て、色々面白いお話をし、時計さんを少しも淋しくない様にして上げるのですよ。

今ね、遠い、お空から飛んで來る時あの森を通つて來ました。澤山の小鳥達は、もう目を覺ましてピー／＼チーチーにぎやかなお歌を歌つて居ました。わたしが小鳥さんお早やう云ひましたら、たーくさんの小鳥があらからちからもこちからも飛んで來て私の周りに一杯になりました。

『小鳥さんこんなに早くからきて何をされるのですか？』さきへましたら、

『わたし達は朝が来たのが嬉しくて眠つては居られません。お目々が覺めるにすぐ嬉しいな  
く、お早やうくミ精一杯鳴きます』するミお母さんの小鳥が、

『わたしは可愛らしい赤チャン鳥に美味しい御馳走をさがしに行きます』

『僕はネ、きのふ見付けて置いたサクランボの木に行つて赤い果をさつさりいただきます』

『わたしは此のお山の下にきれいなお水の出る所に行つて水遊びするのが楽しみ』

ミ色々お話して呉れましたよ時計さん。ホラ、よくきいて御覽なさい、此のお家の廻りにも小  
鳥が鳴いてゐるでせう。ではネ、又あまからわたしのお友達が來ますから楽しみに待つて、下  
さいね』ミ虹の子供はお空へ歸へつて行きました。

時計さんはうれしくてくくなりませんでした。そして今のお話を幾度も思ひ出してゐました  
ら、圍りの小鳥の聲も皆嬉しいくミきこえて來ました。

ボン／＼／＼……八ッ打ちました。八時ですネ。

今度は橙々色のお帽子ミ洋服を着た虹の子供が小さいラッパを吹きながら勇ましく飛んで來  
ました。

『時計さんお早やう。今僕が飛んで來る途中お道を澤山の人が歩いてゐました。皆ここへ行  
くのかきゝ度くなつて、一番小さい人が持つて居る四角いものにきゝましたら、

『わたしはバスケットミ云ふの、中には美味しいお辨當やコップが入つてゐるの、そして此  
の坊チャンミ幼稚園へ行くの』ミうれしそうに云ひました。

も少し大きいお姉さんが何かお肩に負つてゐらつしやるので又きいてみましたら、

『わたしランドセルよ、中には御勉強のお道具が入つてゐます、之からお嬢さんは小學校に  
行つて色々な事を教はつて賢い人になるのですよ』ミ云ひました。

かうしてきゝましたら、お父様方は銀行や會社ミ云ふ所にゐらつしやるのですつて。まだ他  
にお野菜やお豆腐を賣りに行く小父さん、トントンミお家を作つてゐる大工さん、お掃除をして

るお母さん、皆朝が来た／＼と忙しそうでした。時計さん、では又お友達が来る迄待つて、下さいね。さよなら」と歸へつて行きました。

ボン／＼と十一時を打ちました。時計は虹の子供が早く来れば良いと待つてましたら、遠い空から黄色い洋服をひら／＼させて、お日様の光の中をまぶしさうなお顔をして、虹の女の子が飛んで来ました。

「時計さん今日は。今ネ、わたしお人形を作る所見て来ました。お仕事場にはきれいなお着物を縫つてる人、お顔を畫いてゐる人、お髪をつけてる人、日本人形も西洋人形もお目をクリ／＼させて私の方を見てました。竝んでるお人形に、皆さんは之からどこへゐらつしやるのさ、ましたらわたし達方々のお店に行くのよ。汽車に乗つたり、船にのつたり、にぎやかな町のお家や、淋しい田舎のお家の子供さん達に買つていたゞいて、可愛がつていたゞきますの。わたし達は、それが楽しみで早く行き度くてなりませんと云ひました。時計さん、ホーラ此の御部屋にも飾つてあるでせう」

時計さんはお人形さんも自分と同じに、お店から来た事を知つてお友達が出来たのを喜びました。

お晝過ぎになりました。お時計はお空を見ながら虹さんは未だかしら、虹さん／＼とコッコツ虹さん／＼とコッコツ待つて居ますと一時を打つた頃、バタ／＼と緑色のマントを着た子供が大急ぎで飛んで来ました。

「時計さん、今ネ、お空から下りて来る途中、ムク／＼した雲が大急ぎ／＼と下の方に下りて行きました。『雲さん／＼そんなに急いでさちらへ?』とさき／＼しましたら、『わたし達は之からお地面にお水ツブを落しに行きます』つてとても大急ぎでしたよ。そう云つてる間にもうあんなに雲が一杯。ア、音がする。きいてごらんさい。お屋根にも木の葉ツバにもお窓にも」  
雨はバタ／＼と氣持の良い音をたて、降つてます。虹の子とお時計は外を見てゐましたが、

「もう止みさうだから僕歸りませう。此のマントを着て来て良かったさお體をしつかりさ包んで歸へつて行きました。雨はすつかり止みました。今の雨でぬれてゐる木の葉やお花や、うれしそうな小鳥の聲、お遊びに出た坊ちゃんやお嬢ちゃんの聲。其の内に雲は遠くへ行つて、お日様のお顔も見えて来て、遠いお山もはつきり見えて来ました。お時計は體中がすつかり氣持良くなつて来ました。」

三時を打ちますさ水色のお洋服の子供が何か急いで、ハーハー息を切らして飛んで来ました。「時計さん早くあれを見て頂戴。お空の向ふに見えるもの、きれいでせう。あれが私達の虹ですよ。」

晴れた青空に、お山からお山へかゝつてゐる虹の橋、よく見るさ、さつき来た虹の子供達が皆ニコニコして自分を見てゐるのですもの、時計さんはごんなにうれしかつたでせう。

「わたし達ネ、雨が上るさ、時々お日様が虹よ〜〜と呼んで下さるの。するさ大急ぎで集まるのですよ。之から夏になるさ時々出ますから時計さんも見て下さいな。」

そして虹の子供が歸へつてから段々夕方になりました。薄暗くなつて七時を打つた頃、藍色の着物の子供が靜かに御部屋に入つて来ました。

「時計さん。今お畑に寄つて来ました。さつき雨が降つたばかりなので田圃にはお水が一杯。畑の土は軟らかで稲やお野菜が嬉しい〜〜云つてました。畑の土にそつさお耳をつけてみましたら、土の中の根が皆、伸びませう〜〜さお水を吸つて居りました。時計さんが今夜コツ〜〜してゐらつしやる間にあのお野菜達は太れ〜〜伸びよう〜〜さ一生懸命なのですよ。ずい分暗くなりましたネ。わたしは六番目、も一人のお友達は何のお話を持つて来るでせう。」

本當に靜かな夜になりました。町の音も聞えなくなりお家の方もお寢みになりました。十一時を打つた時、董色の透き通つた美しいお洋服の子供が靜かに入つて来ました。

「今晚は、時計さん。私は嬉しいのよ。良いお話をきいて来ましたの。それはね、大きな〜〜

眞黒なお體で、車が澤山ついてゐる煙突から煙を出して走る汽車、中にはお客さんが澤山乗つて居りました。さてもく早いので私も負けずに夢中で飛びました。丁度良く停車場へ着いたので大急ぎで御話をきいて見ましたら、御用のある人達や、大事なお荷物を乗せて遠い所へ連れて行つて上げるのですつて。途中には鐵橋もあるしトンネルや坂もあるし、運轉手さんも機關手さんも車掌さんもちつさもおねむりにならないでお仕事をなさるのですつて。

此の小父さん達も、停車場の小父さん達もお客さん達も、大變時間が大變だから、それを知らせて呉れてお時計をそれはく大切になさるのですつて。時計さんは本當に偉いのネ。ですから早くお話して上げ度いさ楽しみにして來ました。時計さん、又明日來て上げませうね。さよなら」虹の子供が歸つてから又靜かな夜になりました。いつもは淋しいく夜なのですが今は少しも淋しくありません。

それどころか、「汽車も一生懸命、畑のお野菜も一生懸命、私も一生懸命」ミ體中の機械が段々元氣になつて來ました。

朝になつて、お日様は一番初めにお時計の元氣な様子をご覧になつて大層御安心なさいました。それから虹の子供は時々來ては珍らしい面白いお話をきかせてくれました。それにお店で一緒に居たお時計も、いつの間にか皆色々なお家に買つていたよいて、お家の人に大事なお時間を御知らせしてゐる事も知りました。

人も動物も木も花も何もかも皆自分のしてゐる事が一番うれしい事。今のお家の方にはお時計が無くてはならない事。色々なお話をきいて、いつの間にか淋しい事なごすつかり忘れて、毎日々々嬉しいくミ云ひながら、お家の人々に大事なご用を一生懸命にして居るのです。

(以上)